

7. 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 臨床腫瘍学分野

三宅 智^{*,**}

(^{*}東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 臨床腫瘍学分野,
^{**}東京医科歯科大学医学部附属病院 腫瘍センター)

はじめに

東京医科歯科大学（以下、本学）では、従来より緩和医療学については心身・緩和医療学分野の松島英介教授（サイコオンコロジー）が担当してきたが、臨床、教育において身体症状を担当する医師は長らく不在であった。

以下に、2012年以降の本学における緩和ケアについての動向を紹介する。

臨床腫瘍学分野の新設（全人的医療開発学講座、大学院医歯学総合研究科）

2012年1月の時点で、臨床腫瘍学分野（以下、当分野）新設が決定され、担当として緩和医療学（身体）の筆者が選出された。その後、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」（以下、がんプロ）が正式に認められたため、同プランの予算で特任准教授（消化器がんの化学療法担当）と特任助教（肺がんの化学療法担当）がスタッフとして充当された。よって、当分野は通常の方野とがんプロのハイブリッドの形態となっている。

また、当分野は緩和医療学のみならずがん化学療法についても担当している。本学が基幹校を務める「次世代がん治療推進専門家養成プラン」の運営も担当している。

腫瘍センターの新設（医学部附属病院）

大学院の方野である臨床腫瘍学分野に対応する診療部門として、2012年7月に腫瘍センターが発足した。同センターは、緩和ケア部門、化学療

法部門、がん相談支援部門、がん登録部門、がん診療連携部門の5部門からなり、医員2名と医療ソーシャルワーカー1名の職員が配備されており、センター長、副センター長3名は兼任となっている。

このうち緩和ケア部門では、緩和ケアチームと総合がん・緩和ケア外来を開設し、がんプロにおける緩和ケア実習に対応している。また、がん診療連携部門では診療科、部門横断的に月1回のキャンサーボードを開催しているが、キャンサーボードへの参加をがんプロの実践演習としても認定している。

卒後教育

① 大学院

「次世代がん治療推進専門家養成プラン」では、緩和医療専門医、化学療法専門医、放射線専門医、低侵襲がん治療専門医、がん臨床研究・エビデンス実践医療人、総合腫瘍医を養成するコースが設けられている。医師以外では医学物理士、放射線治療品質管理士、がん医療事務職員（がん登録、地域支援、医事会計）を養成するコースがある。

緩和ケアに関連する講義として下記①、②、③を開講している。

①緩和医療学・精神腫瘍学（月曜～金曜 18時30分～21時30分×6週〈計6単位〉）

基礎＝緩和医療学概論、精神腫瘍学特論、緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ
応用＝症状マネジメント（基本編、応用編）、緩和ケア実践

②臨床腫瘍学特論（月曜～木曜 18時30分～

21 時 30 分 × 2 週 (計 2 単位)

③保健衛生学研究科で、年間 2 コマの講義

② 研修医

研修医イブニングセミナー (金曜 18 時 30 分～19 時 30 分) の枠内で、年に 1 回の講義を行っている。2013 年度は 8 月 23 日に“緩和ケアの今”というタイトルで行った。また、血液内科をローテートしている研修医に対して、疼痛についてのクルズス (1 時間) を行っている。

卒前教育

血液・腫瘍ブロック (医学部 3 年次) で、2 週間のうち 5 コマの講義を行っている。内訳は、緩和医療学 3 コマ、精神腫瘍学 1 コマ、チーム医療 1 コマの構成となっている。また、2013 年度より医歯学融合教育の倫理の一部 (医・歯学部 5 年次) として、終末期医療 1 コマの講義を行っている。医学部 6 年次のクリニカルクラークシップにおいて、血液内科での実習期間中に疼痛についてのクルズスを行っている。

大学院分野の責任者は、医学科学生各学年 2～3 名程度の担任となるが、年 2 回の縦断チュートリアルを行い、1 時間程度のディスカッションを行っている。また、プロジェクト Semester (自由選択学習: 医学部 4 年次に 5 カ月間の分野配属。2013 年度は 7 名希望あり、2 名を受け入れ) では、院内の緩和ケア実習および院外の緩和ケア病棟での実習あるいは短期国外留学 (カナダトロント大学) などのコースを用意している。

学外での講義として、4 大学連合 (東京工業大学、一橋大学、東京外国語大学、本学) の活動の一環として、2013 年度より、東京外国語大学の集中講義で 1 コマの緩和ケア・臨床腫瘍学についての講義を行っている。

多職種

多職種を対象とした講演会を、医科歯科緩和ケア勉強会 (1 回/2 月) として開催している。

適宜、院外講師も招聘し、緩和ケアに関する最

新の情報を提供するように心掛けている。また、東京都緩和ケア研修会 (PEACE プロジェクト) を年 1 回開催し、医師のほか、歯科医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、歯科衛生士など多職種の参加を得ている。

一般市民

一般市民を対象とした大学公開講座の中で、年に 1 回の緩和ケアについての講演を行っている。また、がん患者団体支援機構と協働して、月 1 回のがんサロンを開催し、毎回 20 名程度の参加者がある。今後は、がんプロあるいはプロジェクト Semester の緩和ケア実習の一環として、学生の参加を予定している。

がんサロンを運営するファシリテーターを養成するために、年 1 回 3 日間のピアサポーター養成講座の開催に協力し、緩和ケア、臨床腫瘍学概論についての講義を行っている。また、年 1 回開催されるがん患者大集会に協力し、会場の提供やサテライトシンポジウムの開催などを行い、大学院学生、学部学生の参加を呼び掛けている。2013 年度からはリレーフォーライフに東京医科歯科大学腫瘍センターとして参加し、職員、学生の参加も得て、一般市民やがんサバイバーとの連携にも力を入れている。

ネットワーク

地域との病病および病診連携の構築のため、東京緩和ケア研究会、多施設緩和ケア研究会、城南緩和ケア研究会などに積極的に参加し、地域との連携を強化している。また、東京都緩和医療研究会の立ち上げ、がんプロの緩和医療部会のメンバーとして大学間などの連携強化も図っている。

本学は緩和ケア病棟を有していないため、関連施設である豊島病院、友愛記念病院、栃木県立がんセンター、土浦協同病院 (2015 年度新設予定) の緩和ケア病棟と連携を構築している。そのほかにも、静岡県立静岡がんセンター、川崎市立井田病院、NTT 東日本関東病院、日本赤十字社医療

センター，聖路加国際病院などの緩和ケア病棟での学生見学も行っている。がんプロで連携している秋田大学，弘前大学では，腫瘍内科領域での学生実習を行っている。

ついたばかりであり，教育スタッフについても十分な数が確保できていない。しかしながら，上記のようにさまざまな取り組みを開始しており，今後は，がんプロ受講生の増加や緩和ケア教育体制の強化を進めていきたい。

おわりに

本学における緩和ケア教育は，まだその端緒に